



検索

ニュースカテゴリー

施設入所は本人に必ず説明を

あとで読む

【尊厳ある介護（95）】忘れてしまうと思わずに感情レベルで納得を

公開日：2020/03/11 (ソサエティ)

里村 佳子 (社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム理事長)

介護者をご家族の施設入所を決断した時、本人にどのように説明したら良いのでしょうか。

今回は2人の利用者から考えてみたいと思います。



CC BY /Robert Couse-Baker

国重民子さん(仮名87歳)は独身だったので、お子さんがいませんでした。近くに妹さんが住んでいて、いろいろお世話をしていました。

ところが体調を崩し、私たちのデイサービスを利用して入浴をするようになりました。

デイサービスでは、血圧が高いと入浴できないことがあります。国重さんは血圧が高くても、「これくらいの血圧であれば大丈夫。入浴できなければ、デイサービスを利用する意味がない」と言って怒るので、看護師は対応に困っていました。

そんなある日、国重さんはついに入院をしました。退院後は物忘れが進み、歩くことも困難になりました。

妹さんはこれ以上姉が独居生活を続けることは無理だと思い、姉に「物忘れがあって介護が必要な人が入る施設を、一緒に見学しましょう」と、提案しました。

見学後、ケアマネジャーから施設の生活について説明を受けた国重さんは「ここ

でお世話になるしかない」と、決断して入所となりました。

しかし安心したのは束の間、妹さんは自ら望んだとはいえ自己主張の強い姉が、施設で上手くやっっていけるかと不安をつのらせるようになりました。

案の定、「分かっていたけど、自由に外出できない」「味付けが薄くて食欲がわかない」等と、スタッフや妹さんに不満をぶつけるようになりました。

ですが、どんなに不平を訴えても、家に帰りたいとはおっしゃいませんでした。国重さんは施設を見学し、自身で納得して入所したからです。

一方、鈴鹿浩二さん（仮名85歳）は、自宅で奥さまと2人で生活をしていましたが、認知症になり外出して家に帰れなくなる日が続いていました。

そしていつもの受診時、持病の悪化を指摘され入院となりました。

奥さまも高齢で無理に無理を重ねていたのも、ついに在宅での介護を断念されました。退院後、鈴鹿さんは自宅に帰らず直接グループホームに入所されました。

ケアマネジャーは契約時、ご夫婦にグループホームについての説明をしました。が、奥さまから夫に施設入所の話はしませんでした。

奥さまは「施設に入所する」と夫に告げると、嫌がって拒否すると思ったのです。

そのせいか、鈴鹿さんは入院先の病院から、グループホームに転院したと思っていたのです。つまり、グループホームを病院だと勘違いしていたのです。

だから、「元気になったので、家に帰ります。家内に連絡してください」と、何度もスタッフに訴えられたのです。

その度にスタッフは奥さまに連絡をとりましたが、「私は元気であるから、心配しないで。あなたはそこで治療に専念してね」と、夫を説得しました。

それで落ち着かれることもあるのですが、「帰らせてください」と大きな声をあげる事が何度もありました。

鈴鹿さんは記憶障害がありますが、会話は可能で歩行も自立しています。妻がいれば自宅で生活ができると考えても不思議はないのです。

それどころか、妻は自分が家にいないので心配していると思っていたのです。

だから、自分が施設にいなければならない理由が分からなかったのです。

もし、奥さまが「私は病弱で、あなたのお世話はできなくなった」と、話す機会を持っていれば、夫の気持ちはもっと違っていたのかもしれない。

数年後、奥さまも要介護状態になり、夫と同じ施設に入所したいと希望されましたが、それを待たずに急逝されました。後を追うように鈴鹿さんもお亡くなりになりました。

奥さまは電話口には出てくれていましたが、なぜか面会に来られることはありませんでした。

その理由を聞いたことはありませんでしたが、奥様から「姑と同居して辛い思いをしましたが、夫は私を助けてはくれませんでした」と言われた言葉が、私の心に引っかかっていました。

でも、奥様は人生の最後は、夫と一緒に施設で過ごすことを選択したのです。

私は施設入所を検討する場合は、できれば本人とご家族で見学してもらうよう勧めています。

認知症の人は見学をしても直ぐに忘れてしまったり、入所を嫌がったりするのではないかと考える家族介護者もいらっしゃると思いますが、本人に感情レベルで納得していただくことが大切なのです。

そんな納得の有無が、その後の施設での満足度を左右するのです。

(注)事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

[続報リクエスト](#)
[マイリストに追加](#)

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [新型コロナが変えるのはー中国の体制か、グローバル化か](#)
- > [米追加緩和は必至だが、緩和の限界も露呈](#)
- > [新型肺炎感染はなぜ拡大したか・・・中国政府の危機管理の失敗](#)
- > [中国での感染はピークアウトしそうだが、東京五輪開催に悲観論](#)

[プロフィール](#)
[最近の投稿](#)


里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム理事長）

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設運営。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。2019年ニュースソクラのコラムを加筆・修正して「尊厳ある介護」を岩波書店より出版。

[この記事編集](#)

ソクラとは	FAQ
編集長プロフィール	利用規約
利用案内	プライバシーポリシー
著作権について	特定商取引法に基づく表示
メーカーソクラ	お問い合わせ
お知らせ一覧	コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved